

2024年11月29日

各位

株式会社三井住友銀行

東京鐵鋼株式会社に「ESG/SDGs 推進分析融資/シンジケーション」を実施

株式会社三井住友銀行（頭取 CEO：福留 朗裕）は、東京鐵鋼株式会社（代表取締役会長：吉原 毎文）に対し、「ESG/SDGs 推進分析融資/シンジケーション」を実施いたしました。

「ESG/SDGs 推進分析融資/シンジケーション」は、株式会社日本総合研究所（代表取締役社長：谷崎 勝教）と弊行が作成した基準に基づき、企業の ESG 側面の取り組みや情報開示、SDGs（持続可能な開発目標）達成への貢献を評価し、その趣旨に賛同頂いた金融機関によって組成されるシンジケート・ローンとなります。

今回対象となりました東京鐵鋼株式会社の取り組みは、環境側面（E）、社会側面（S）及びガバナンス側面（G）の各項目を通じたサステナビリティに向けた企業経営において、一定の ESG 及び SDGs 達成に向けた取り組みおよび情報開示を実施されていると判断されました。

特に、ESG 及び SDGs 達成に向けた取り組みでは、以下の内容が評価されました。

E：環境側面では、自社の事業活動に伴う環境負荷を削減するため、2050年カーボンニュートラルという長期ビジョンを示すとともに、2030年度に向けたCO2排出量の削減目標を設定していること。また、サステナビリティ戦略として、建設業における省力化ソリューションの提供を推進する方針を策定していること。

S：社会側面では、製品の安定供給に向けてBCPを策定しているほか、最高リスク管理責任者のもと、4つの委員会を設置し、リスク低減に向けた対策の検討を行っていること。また、原材料調達先の分散化や定期的な消防訓練・自然災害訓練の実施等の取り組みを行っていること。

G：ガバナンス側面では、「建設業の発展に寄与し、環境リサイクルへの貢献を目指す東京鐵鋼」というコーポレートメッセージを発信し、事業活動を通じて地球環境問題等の社会課題の解決に貢献する姿勢を明確にしていること。

SDGs：持続可能な社会の実現に向けた具体的な取り組みとして、建設業における省力化ソリューションの提供を推進していること。

株式会社三井住友銀行では、お客さまのサステナビリティ経営に向けたソリューションの提供や対話を行い、持続可能な社会および市場の形成に一層貢献を行ってまいります。



<太陽光発電設備の導入>

八戸工場では工場敷地内の建物屋根に太陽光パネル（面積 4,600 m²）を設置し、2024年3月に発電を開始しました。これにより 940kW の発電が可能となり、発電した電力は環境リサイクル事業の施設で全量自家消費します。この自然エネルギーの活用によって二酸化炭素排出量の削減へつなげます。電力削減効果：約 110 万 kWh/年、CO₂ 削減効果：約 500 トン/年



<環境リサイクル事業を通じた社会貢献>

八戸工場の環境リサイクル事業の一つが製鋼用電気炉で発生する 1600℃以上の高温を活用して有害な産業廃棄物を無害化する分野です。もう一つは、廃自動車や廃家電などを粉碎・選別して、鉄などの有用資源を回収、プラスチックなどは炭化処理し、燃料として再利用する分野です。



<高強度ネジテツコンと先組工法でCO₂削減へ>

東京鐵鋼の棒鋼である「ネジテツコン」と「継手」を使用した先組工法による省力化によって建設トータルコストの低減を実現。また、建設現場での仮設材や重機稼働時間等の削減や鉄筋等の使用量減により、建設サイクル全体でのCO₂排出量の削減が可能となります。また高強度ネジテツコンに併せて、高強度コンクリートを組み合わせることで、柱や梁の断面を縮小することが可能となり、更なるCO₂排出量の削減と建物の長寿命化にも期待できます。モデル物件での試算では、建設サイクル全体で11%のCO₂排出量削減の効果を得られました。

<ご参考>

※1 ESG とは

ESG とは環境 (Environment)、社会 (Social)、企業統治 (Governance) の頭文字を取ったものです。いずれの側面も企業が事業活動を展開するにあたって配慮や責任を求められる重要課題として考えられています。

※2 SDGsとは

Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標) の略称。国連総会で採択された、新興国だけでなく先進国等あらゆる国と地域が、貧困や平等、教育、環境等、「誰も取り残されない世界」の実現を2030年までに目指す17の目標と169のターゲットのことです。

以 上